

平成31年度 「てつがく」の学び 1年次研究（案）

1 「てつがく」の学び とは

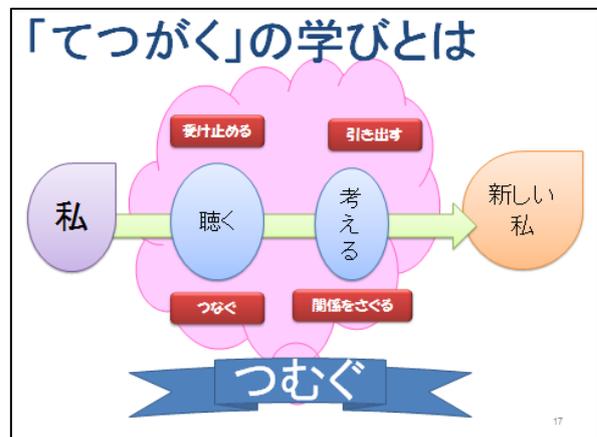
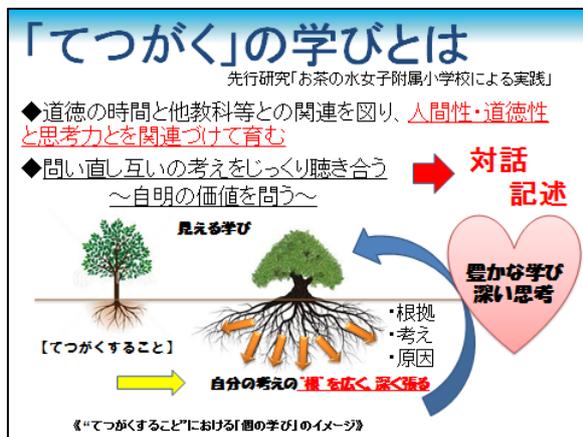
〈先行研究：お茶の水女子大学附属小学校による実践〉

- ・文部科学省研究開発校

【研究開発課題】『道徳の時間』と他教科の関連を図り、教育課程全体で、人間性・道徳性と思考力とを関連づけて育む研究開発を行う。そのために、自明と思われる価値やことがらを、「対話」や「記述」などの多様な言語活動を通して問い直し考える新教科「てつがく」を創設する。

- ・新教科「てつがく」とは：（お茶小）

学問体系としての「哲学」を学ぶのではなく、思考力と人間性・道徳性を関連づけながら両面の育成を試行し、様々な価値や概念と向き合い、「対話」「記述」などの言語活動を通して互いの考えをじっくりと聴き合い、自ら問い直し考えるという学びである。



2 「てつがく科」の要素を取り入れた学び

- ◆特別の教科「道徳」目標：

（道徳教育の目標に基づき）より良く生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

- ◆新教科「てつがく」目標：

自明と思われる価値やことがらと向き合い、理性や感性を働かせて深く考え、ねばり強く問い続けたり、広く思いを巡らせ多様に考えたりすることを通して、民主的な社会を支える市民の一員として、創造的によりよく生きるために、主体的に考察し、前向きに他者と関わる市民を育む。

※共通：自己にかかわるもの、他者にかかわるもの、世界にかかわるもの

3 「てつがく」でつけたい資質・能力：越知町教育委員会・越知小学校

- ① 価値やことがらに疑問・問いをもち、批判的・多面的・議論的に思考し問い続ける。
- ② 自らの思いや考えを伝えるとともに、多様性の受容を意識して、応答性のあるかわりをもつ。
- ③ 価値やことがらを比較し、概念化したり、共通理解を得たりする。

4 本校1年次の実践研究 ～「てつがく科」の要素を取り入れた学び～

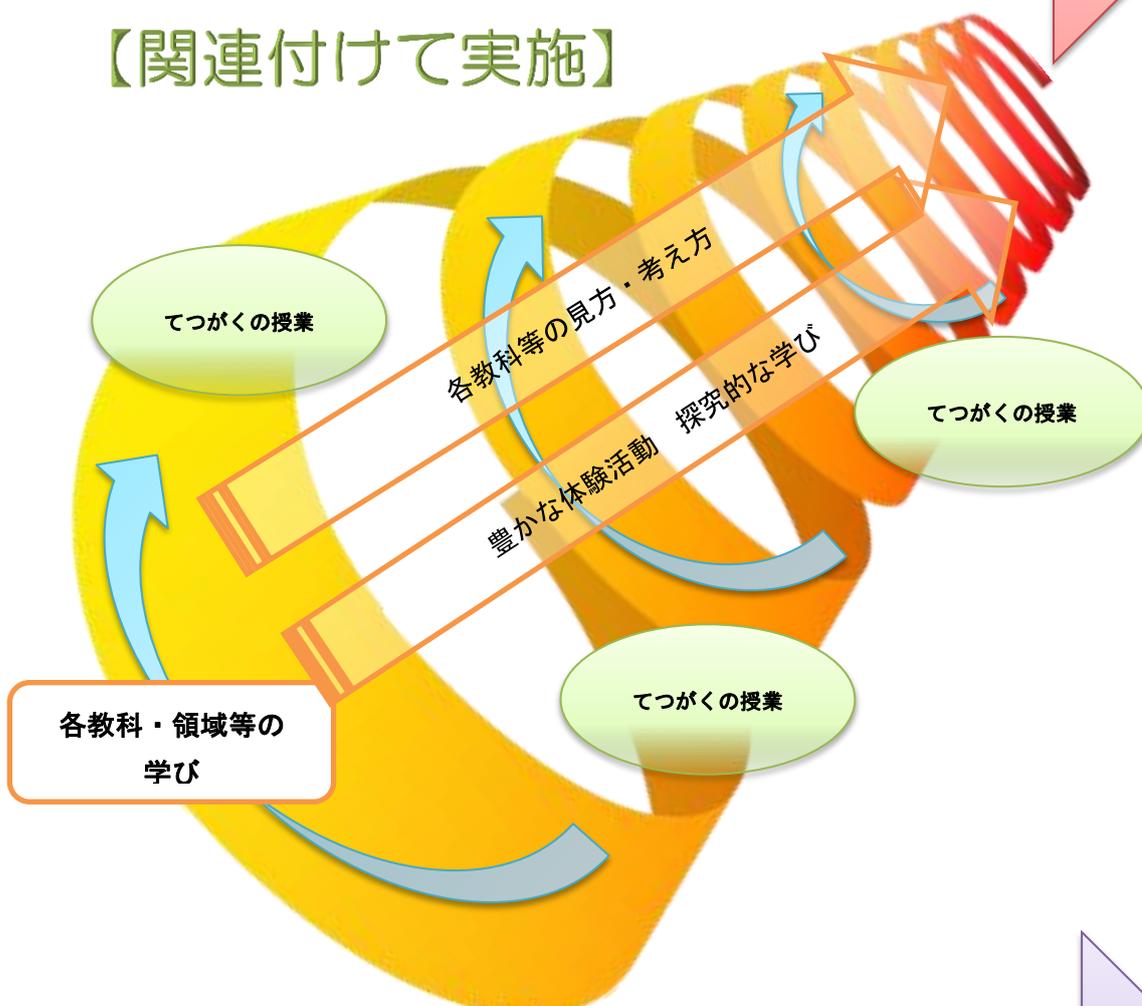
(1) 本校のねらい

- ・ 自明な価値観を「対話」や「討論」を通して、反省的にとらえ直して深く考えさせる（他人の言葉に耳を傾け「聴き合う」ことから、自分の考えを決めたり、深めたり、他者に働きかけたりする）ことにより、それまでの対象の理解の仕方や価値観を変革し、対象の新しく見えてきた面も含めた知識や価値観をつくり直そうとする。
- ・ 教育課程全体を通して育成を目指す三つの柱で整理された資質・能力を育成するために、「特別な教科道徳」や各教科等の内容と関連させた指導を行う。

(2) 1年次 研究イメージ

◆R1：国語・社会・総合的な学習・「特別な教科道徳」・特別活動
裁量等の時間で実施（年間計画作成）

【関連付けて実施】



他人の言葉に耳を傾け「聴き合う」ことから、
自分の考えを決めたり、深めたり、他者に働きかけたりする)
手だて：サークル対話の手法を活用

これから必要とされ資質能力の育成（三つの柱）